

子どもの読書活動を支える全ての方へ

子どもと読書のこれから



大切にしたい、本との出会い。

京都市教育委員会

メッセージ

読書は全ての子どもにとって、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像・創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものです。

また、読書を通じて、自分とは違う人の考えや、様々な世界にふれる経験は、子どもが何かに挑戦しようとするとき、困難に向き合ったときの、大きな支えとなります。

子どもの置かれた環境や障害の有無等に関わらず、全ての子どもたちの読書環境と読書機会を保障することは大人の責務です。



京都市では、家庭・地域・学校等が一体となって、子どもが本と出会い、親しみ、読書習慣を身に付けることができるよう「京都市子どもの読書活動推進のための取組指針」を策定しました。

取組指針 HP



本リーフレットは、子どもの読書活動を支えるために、家庭・地域・学校等がそれぞれの立場で大切にしたい視点や考え方などをまとめたものです。



基本方針



1
全ての子どもへ読書に
親しむ機会の提供

→P7-8

3
子どもの読書活動を
支える大人への
啓発・理解促進

→P11-12

5
生涯にわたる学びに
つながる読書習慣の定着

→P14

2
子どもの発達段階・発達
特性や社会の変化に応じた
読書環境の充実

→P9-10

4
京都ならではの魅力に
親しむ読書活動の充実

→P13





それぞれが、連携・協力して、社会全体で

取組を進めていくことが大切です。



家庭

子どもの読書習慣は、日常生活を通して形成されるものであり、最も身近な存在である保護者の果たす役割が非常に重要です。本市では、発達段階に応じて、家庭での読書に親しむ取組ができるよう、地域・学校等とも連携し、環境づくりを進めていきます。

京都市では、様々な施策・取組を通して、家庭・地域の活動を支え、公共図書館や学校等での取組を充実していきます。



学校等*

学校等は、多様な背景をもつ子どもの状況を踏まえ、全ての子どもが生涯にわたって読書に親しみ、読書を楽しむ習慣を形成していくうえで大きな役割を担っています。本市では、発達段階に応じた切れ目ない適切な読書支援や、学校図書館の活用など、子どもたち自身が主体的に読書に親しむ取組等を進めていきます。

*学校等：保育所・認定子ども園・幼稚園・小学校・中学校・小中学校・高等学校・総合支援学校



地域

子どもがより多くの読書の機会に恵まれるために、地域が果たす役割は非常に大きくなります。地域では公共図書館をはじめ、児童館や子ども文庫、読み聞かせボランティアグループ、PTAサークル、書店等の様々な機関・団体等が連携しています。本市では、子どもたちが本とふれあう機会を創出するため、環境づくり、人づくりを進めていきます。



子どもの発達段階ごとの

特徴と大切なこと



特徴

乳児 幼児

周りの大人から言葉を掛けてもらったり乳幼児なりの言葉を聞いてもらったりしながら言葉を次第に獲得するとともに、絵本や物語を読んでもらうこと等を通じて絵本や物語に興味を示すようになる。さらに様々な体験を通じてイメージや言葉を豊かにしながら、絵本や物語の世界を楽しむようになる。

小学生(低学年)

本の読み聞かせを聞くだけでなく、一人で本を読もうとするようになり、語彙の量が増え、文字で表された場面や情景をイメージするようになる。

小学生(中学年)

最後まで本を読み通すことができる子どもとそうでない子どもの違いが現れ始める。読み通すことができる子どもは、自分の考え方と比較して読むことができるようになるとともに、読む速度が上がり、多くの本を読むようになる。

小学生(高学年)

本の選択ができ始め、その良さを味わうことができるようになり、好みの本の傾向が現れるとともに読書の幅が広がり始める一方で、この段階で発達がとどまったり、読書の幅が広がらなくなったりする子どもが出てくる場合がある。

中学生

多読の傾向は減少し、共感したり、感動したりできる本を選んで読むようになる。自己の将来について考え始めるようになり、読書を将来に役立てようとするようになる。

高校生

読書の目的、資料の種類に応じて、適切に読むことができる発達段階に達し、学術論文や専門書なども含め、自己の進路や興味・関心に応じた読書を行うようになる。

文部科学省「子どもの読書活動推進に関する基本的な計画(令和5年3月)より引用



乳児

幼児



小学生



中高生



大切なこと

乳児

ぬくもりを感じる読み聞かせを

周りの大人から言葉を掛けてもらいながら、言葉を獲得していくため、肌の温もりや声の優しさを感じられるよう、スキップを意識しながら、絵本の読み聞かせを行うことが大切。

幼児

絵本で言葉の世界を広げる

絵本の読み聞かせは、親子の絆を深めるだけでなく、言語能力の発達につながる。美しい言葉や韻を踏んだ言い回しなど、子どもに出合わせたい言葉が使われていることが多い、語り継がれている作品などを通して、いろいろな言葉に親しめるようにすることも大切。

小学生

自分で読む楽しさを広げる

読み聞かせも続けながら、自分で読む楽しさの体験を重ねていくことが大切。学年が上がるにつれて幅広いジャンルの本に親しみ、読書活動を通して自分の考えを広げたり、深めたりしようとする態度を身に付けていくことが大切。

中学生

主体性を大事に読書習慣をつなぐ

読書をする子としない子の二極化が進み、読書習慣の継続が難しくなる時期。友人との読書体験の共有やメディアを活用した読書の促進(映画原作、SNSで話題の本など)が効果的。小学生期までの読書習慣が途切れないよう、子どもの主体性を大事にしながら読書支援をすることが大切。

高校生

生涯にわたり読書に親しむ姿勢を育む

勉強・部活動・課外活動への参加等様々な理由から、幅広い読書をする時間の確保が難しい生徒が多くなるが、読書を自らの人生を豊かにするものと捉え、今後のライフステージに応じて本を読む力や、読書に親しむ姿勢を身に付けることが大切。

上記は一般的な傾向を示したものです。子ども一人一人の成長の様子は異なりますので、それぞれの状況に応じて、周りの大人が関わり支えていくことが大切です。

1

基本方針

全ての子どもへ 読書に親しむ機会の提供

家庭

どうしたら本に興味を持ってもらえるかな？

子どもの興味・関心や発達段階に応じて、本の話題を親子の会話のきっかけとするなど、親子で楽しみながら読書に取り組むことが大切です。



地域の私たちにも何か
できることはないかな？

地域

保護者や子どもへの読書支援、子どもが読書の楽しさを感じることでできるイベント、居場所づくり等を通じて、子どもが本とふれあう機会を創出することが大切です。



学校等

子どもの読みたい気持ちを
引き出すには？

読書活動や読書指導の充実を図り、子どもが本にふれる機会を増やすとともに、体験の幅を広げられるよう、学校図書館を活用した授業、読み聞かせやビブリオバトル、子どもも参加する選書会など、多様な取組を行うことが大切です。



家庭環境や社会経済的背景、障害の有無等にかかわらず、全ての子どもに本との出合いの機会を充実させることを目指します。

本と出会うきっかけ

0歳からの絵本コンサート

京都市立京都堀川音楽高校生と京都市図書館との連携のもと、京都市図書館で乳幼児と保護者向けのミニコンサートと読み聞かせ等を実施。家族で絵本や本に親しむことができ図書館に足を運ぶきっかけになっています。



応援団の取組紹介!!

令和6年度京都市子どもの読書活動優秀実践団体(者)表彰より

大人も読書を楽しんで

テーブルに、お母さんやお父さんの読みかけの本をそっと伏せて置いてみる。「面白いのかな？」から、子どもの興味が広がるかもしれません。



出合いの
ヒント

2

基本方針

子どもの発達段階・発達特性や 社会の変化に応じた読書環境の充実

家庭

新しい本との出会いの形、
探してみよう。

子どもが読書への興味・関心を高めるきっかけは様々です。大人自身が読書を楽しむ姿、紙の本の手触り感や光沢、友達との会話、多様なメディアからの発信など、子どもに響く取組を試してみることが大切です。



どんな図書館に行きたい？

地域

公共図書館においては、蔵書数をはじめとする基本機能の充実や専門人材の育成に加え、居心地のよい空間づくりや、各館が特色あるサービスの提供を進め、子どもが自ら足を運びたい環境の整備が求められます。



学校等

読書を促すためのちょっとした
工夫、何ができるかな？

就学前施設での絵本や物語などに親しむ取組、学校図書館の開館時間の拡大をはじめ、蔵書の整備、学校司書の適切な配置など、子どもが日常的に本とふれあえる環境づくりを行うことが大切です。



乳幼児期から高等学校段階に至るまで、子どもたちが自分に合った形で読書に親しむことができるよう、学校図書館や京都市図書館等の整備、情報発信の工夫、デジタル社会への対応など、読書環境の整備・充実に図ります。

＼本と子どもをつなぐ読み聞かせ／

檜原小学校図書サポーター木いちごの会

PTAや卒業生の保護者、地域の方々などで構成する木いちごの会の皆さんが、京都市立檜原小学校で毎週1回育成学級を中心に読み聞かせ活動を実施。子どもたちの笑顔があふれる時間になっています。



応援団の取組紹介!!

令和7年度京都市子どもの読書活動優秀実践団体(者)表彰より

どこでも本棚!?

家の食卓の近くや寝室、廊下などに小さな本棚を置いてみませんか。思わず本に手が伸びる、気が付いたら読んでいた、そんな仕掛けを、家の中につくってみてください。



出会いの
ヒント

3

基本方針

子どもの読書活動を支える 大人への啓発・理解促進

家庭

大人も読書楽しんでる？

読み聞かせは文字が読めるようになった小学生以降も大切です。また、令和7年度全国学力・学習状況調査の結果から、読書が好きな児童生徒ほど正答率が高い傾向が見られました。大人も読書を楽しんだり、親子で読んだ本の感想を話し合ったりすることも大切です。



本にふれられる場所が
たくさんあるといいな

地域

公共図書館以外にも、地域には、児童館や地域・家庭文庫、まちライブラリーなど、本を見たり借りたりすることができる場所があります。多様な背景をもつ子どもの読書経験を支えるためには地域ぐるみの取組も大切です。



学校等

家庭も地域も巻き込んで
読書活動を支えていきたい！

保護者や地域の方が集まる機会や、学校だより・学校図書館だよりを通じた啓発や、学校司書・司書教諭等を中心とした組織的な取組の推進、ICTを活用した各校での実践の交流を進めることが大切です。



子どもの身近にいる大人が、子どもが読書することの大切さに対する理解や関心を高めることが大切です。保護者や学校等にとって、負担感なく取り組める工夫や、子どもが本を読むことの価値を実感できる情報を様々な機会を捉えて伝えていきます。

大人も本に親しむ機会

西院小学校夏休み！図書館ふれあいデー

京都市立西院小学校では、夏季休業中を利用して、保護者や地域の方の協力で、紙芝居の読み聞かせや学校司書による保護者向けのブックトークを実施。大人が子どもと一緒に学校図書館を見学するなど、大人もたくさんの本に出合う機会になっています。



応援団の取組紹介！！

令和7年度京都市子どもの読書活動優秀実践団体(者)表彰より

東京大学教授、酒井邦嘉先生に聞きました。

脳科学の視点からみた読書活動の意義

- 言葉の意味を補う「想像力(行間を読む能力)」が自然に高められる
- 自分の言葉で「考える力」が自然と身に付く
- 能動的な読書体験が脳の働きに変化をもたらし、子どもたちの成長と心の発達を支える

💡 気に入った本を何度も読む「再読」は「読む力」を育てます

出合いの
ヒント

4

基本方針

京都ならではの魅力に親しむ 読書活動の充実



京都の魅力への理解を深め、その良さを他の地域、世界に発信し、次代に継承していくためにも、京都の伝統文化や歴史、古典文学に加え、京都が育ててきた先進性など、多様な郷土資料の充実が大切です。新たに、京都の文化資源を活用した体験と結びつけた読書機会の充実を図ります。



5

基本方針

生涯にわたる学びにつながる 読書習慣の定着



読書は子どもの知的好奇心を刺激し、新たな世界への扉を開いてくれます。大人になっても学びを続け、人生をより豊かなものとするために、子どもの時期での読書習慣を形成し、生涯にわたって読書を楽しむ習慣の定着を目指します。



京都の本屋さんの取組

京都の本屋さんが加盟する京都府書店商業組合が主催する「京都本大賞」は、過去1年間に発刊された京都府を舞台にした小説の中から、地元の人にぜひ読んでほしい一冊を、読者とともに選出する文学賞です。今、最もおすすめの「京都本」をぜひ見つけてみてください。

京都本大賞

出合いの
ヒント

京都国際 マンガミュージアム

マンガにも、行間を読む力を養える側面があり、子どもたちの想像・創造力を育てる読み物として楽しむことができます。京都市には、世界に誇るマンガのミュージアムがあります。江戸期の戯画浮世絵から海外のものまで、約30万点の資料が保存され、そのうちの約5万冊は館内で自由に読むこともできます。



出合いの
ヒント

ブックリスト「本のもり」

子どもたちにおすすめの本を年代別に各30冊選んだブックリスト「本のもり」。
〈赤ちゃん編〉〈幼児編〉〈小学校低学年編〉〈小学校中学年編〉〈小学校高学年編〉〈中学校編〉の6種類あります。
京都市の図書館で配布しているほか、ホームページの「こどもページ」からもご覧いただけます。
各図書館の本のもりコーナーでは、紹介している本の展示貸出も！



「本のもり」は
こちらへアクセス！



どうやって使うの？
どんな本があるの？
くわしくはウェブサイトで！



出合いの
ヒント

子どもたちが主体的に読書に向かうために

アンケートの結果から、

時間・出会い・興味関心

が主体的な読書につながる大切な視点
であることがわかりました。

時間



興味
関心

出会い



中学生に聞きました。

Q. 本を読みたいと思うのはどんなときですか？

- A. 1位 本のタイトルや内容に興味・関心があるとき
2位 ひまな時間ができたとき
3位 読んだ本の続きが知りたいとき
番外編 勉強したくないとき

アンケート結果



高校生に聞きました。

Q. 読む本をどのように選んでいますか？

- A. 1位 本屋で気になった本
2位 自分の好きなジャンルや作家の本
3位 ドラマ・映画・アニメ・マンガなどの原作や関連の本
番外編 本の表紙やカバーが気に入った本



発行日 令和8年3月

発行元 京都市教育委員会事務局生涯学習部学校地域協働推進担当

〒604-8064 京都市中京区富小路六角下ル骨屋之町549

TEL 075-251-0456 FAX 075-251-0449

<子ども読書活動推進>

URL <https://www.city.kyoto.lg.jp/kyoiku/category/180-11-5-0-0-0-0-0-0-0.html>

